

キマダラモドキ *Kirinia fentoni* (Butler, 1877)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更コード 11, 13

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

オスの開張はおよそ 55 mm、メスはやや大きい。褐色の地色に黄褐色の斑紋が散らばる。裏面の後翅の眼状紋が目立つ。幼虫の食餌植物はイネ科、カヤツリグサ科の各種の草本。孵化した幼虫は食を摂らず 1 齢幼虫で越冬する。成虫は年 1 回 7 月下旬に発生し、9 月上旬まで見られる。樹液などを吸汁する。

2. 分布

国外ではロシア南東部、中国東北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国に分布するがいずれの地域でも生息地は局地的である。県内では富士山麓の標高 600 ~ 1,300 m、御殿場市、裾野市、富士市、富士宮市から記録がある。

3. 生息環境

富士山麓の標高 600 ~ 1,300 m に広がるカシワの疎林や、草原に隣接するクヌギ、ウラジロモミ、アカマツを交えた落葉広葉樹の疎林内などが生息地となる。

4. 生息状況

富士市では 1960 年代に愛鷹山越前岳から記録があるが 1970 年代以降記録がない。富士宮市は富士山西麓に 1980 年代後半まで比較的広範囲に生息していたが、その後の記録がない。富士山東麓ではかつて広く生息していたにもかかわらず、自衛隊東富士演習場内は調査できないまま、1990 年頃以降演習場の周辺も含めて情報が途絶え、県内の生息状況は明らかではなかった。しかし、演習場内の立入が可能となり調査したところ、個体数も少なく、安定して生息していることが明らかとなった。

5. 減少の主要因と脅威

富士山西麓では各種の開発 (16) のほか、草原の放置による植生遷移の進行 (54) で、生息に適した「多様性のある草原—疎林—明るい森林」といったパターンが消滅したことが主な要因と考えられる。東富士演習場内は開発が行われることなく、生息環境は保たれ、本種の生息も安定した状況にあるといえる。

6. 保護対策

草原と疎林が維持されることが望まれる。

7. 特記事項

神奈川県では絶滅危惧 I A 類にランクされている。

8. 主な文献

清 邦彦 (1988) 1988 年富士山の蝶. 駿河の昆虫, (144): 4153-4155

諏訪哲夫・鈴木英文・高橋真弓 (2012) 2011 年, 富士山地域の蝶類の記録. 駿河の昆虫, (237): 6534-6539

高橋真弓 (1963) 愛鷹山越前岳付近 8 月上旬の蝶. 駿河の昆虫, (44): 1209-1210

高橋真弓 (1979) 静岡県および山梨県におけるキマダラモドキ (ジャノメチョウ科) の分布. 東海自然誌, (3): 1-13

谷川久男 (2012) 裾野市須山でキマダラモドキを採集. 駿河の昆虫, (239): 6595

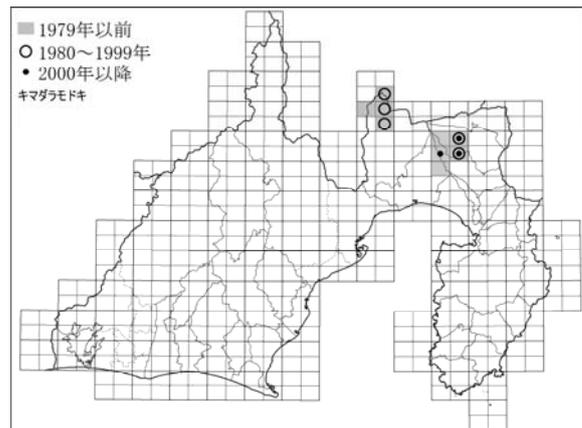
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



裾野市産♀裏面 2012年8月8日 諏訪哲夫採集



クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* (Motschulsky, 1861)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-II 分布上注目種等)変更コード 11, 13

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

開張およそ 60 mm。暗褐色の地色の翅表に 3 個、翅裏に 9 個の眼状紋をもつ。年 1 回 7 月上旬より発生し、9 月初旬まで見られる。幼虫の食餌植物はススキ、オオアブラススキなど。幼虫で越冬する。夕暮れ薄暗くなつてから活発に活動する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に、国内では本州、九州、四国に分布する。県内では安倍川流域以西の山地に分布し、富士山、伊豆半島には分布しない。

3. 生息環境

やや暗い谷沿いの雑木林や、その周辺で見られる。日中は林内にいてあまり活動しないが、夕暮れ薄暗くなると林道などの開けた空き地に出てきて活発に活動を始める。

4. 生息状況

1980 年代の終わりまでは標高およそ 1,000 m 以下の安倍川以西の山地に比較的広く記録があるが、1990 年代になって特に低山地からの記録が少なくなった。2000 年代の初め以降、調査を各地で綿密に行うことにより各地から生息が確認されるようになった。

5. 減少の主要因と脅威

2 次林である雑木林や疎林は人手が入らないと荒廃や植生遷移が進みやすく、暗い樹林になることが要因の一つとみられる (53)。

6. 保護対策

里山や山間地の森林の整備が進むことが望まれる。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

菊地泰雄・竹内克弥 (2014) 2013 年、静岡県中・西部のクロヒカゲモドキの記録. 駿河の昆虫, (246): 6776

菊地泰雄 (2015) 静岡県中・西部のクロヒカゲモドキの記録 (2014 年). 駿河の昆虫, (250): 6873

高橋真弓 (1962) 静岡県およびその付近のクロヒカゲモドキの分布. 駿河の昆虫, (40): 1085-1107

高橋真弓 (2008) 2007 年安倍川支流におけるクロヒカゲモドキの分布調査. 駿河の昆虫, (222): 6180

高橋真弓 (2014) 2013 年、静岡市葵区におけるクロヒカゲモドキの新記録地点. 駿河の昆虫, (246): 6775-6776

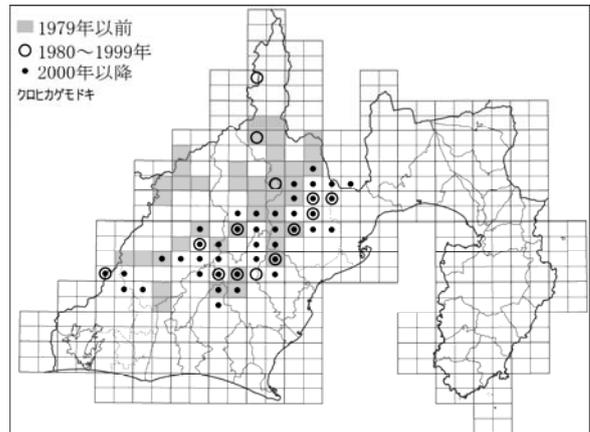
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(鈴木英文・諏訪哲夫)



静岡市産♀裏面 2013 年 8 月 22 日 鈴木英文採集



シュゼンジフユシヤク *Inurois kobayashii* Nakajima, 1992

シヤクガ科 Geometridae

静岡県カテゴリー 部会注目種(N-II 分布上注目種等) 変更なし

[2004年版カテゴリー 部会注目種(N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張オス 24~28 mm。メスは体長 8~9 mm で翅を欠く。オスの触角は鋸歯状で 51~55 節。メスは糸状。オス前翅の地色は黄褐色、外横線は M1 で角張る場合が多い。外観はフタスジフユシヤクに似るが、メス交尾器に差異がある。成虫は 1 月上~下旬に出現する。幼虫はソメイヨシノで飼育できる。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県伊豆市修善寺周辺）のみでえられている。

3. 生息環境

食樹となるサクラなどが存在する広葉樹林。

4. 生息状況

1990 年 12 月~1991 年 1 月にかけて採集された個体に基づいて、新種記載された。その後、1993 年まで調査が行われ成虫が確認されている。現状では国内で伊豆市修善寺のみに生息することになり、分布上注目される。最近では、2013 年 1 月に採集記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

特になし。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし

8. 主な文献

中島秀雄 (1998) 日本産フユシヤクガ類 (鱗翅目, シヤクガ科) の分類学的, 生態学的研究. *Tinea*, 15 (suppl. 2): 1-246

Nakajima, H. (1992) Descriptions of two new species of *Inurois* (Geometridae, Oenochrominae) from Japan, with special reference of female genitalia. *Tinea*, 13: 209-220

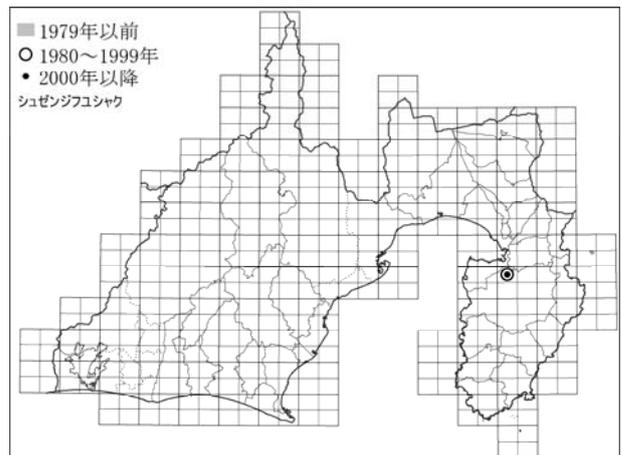
中島秀雄 (2011) シヤクガ科フユシヤク亜科. 岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑 I, pp. 200-203. 学研教育出版, 東京.

9. 標本

伊豆市修善寺産 : 国立科学博物館所蔵 (ホロタイプ)



伊豆市産♂上面 2013 年 1 月 13 日 飯森政宏採集



(枝恵太郎)

キタダケヨトウ *Anarta odontites* (Boisduval, 1829)

ヤガ科 Noctuidae

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) 変更コード 17

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張約 30~36 mm。オスの触角は微毛状。前翅は暗灰色で内・外横線間はやや暗色を呈し、環状紋は白色、暗色の核を有し、その下方の淡色影に接続する。成虫は7~8月に採集されている。ヨーロッパでは、マメ科、ナデシコ科などの草本を食べるとされる。

2. 分布

国外では中部~南部ヨーロッパの山地帯から中近東、モンゴル、チベットから知られ、国内では赤石山脈北岳の標高約 2,600 m 付近、県内では大井川上流小西俣付近の標高 1,800 m での記録があるのみ。

3. 生息環境

ヨーロッパでは高山の岩場でまばらな植生環境に生息するとされる。

4. 生息状況

北岳の標高約 2,600 m 付近では 1959 年と 1962 年の 8 月上旬に各 1 オス、県内大井川上流小西俣付近の標高 1,800 m では 1968 年 7 月下旬に 1 オスの記録があるのみ。その後小西俣付近において、1998~2001 年の間に調査を実施したが確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

特になし。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

神保一義 (1998) 日本の珍しい蛾 -10- キタダケヨトウ. やどりが, (177): 29

H. Hacker, L. Ronkay & M. Hreblay (2002) Hadeninae 1. -Noctuidae Europaeae, volume 4-, pp. 25-26. pl. 1. Entomological Press, Soro, Denmark.

吉松慎一 (2011) ヤガ科ヨトウガ亜科. 岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑 II, pp. 368-384. 学研教育出版, 東京.

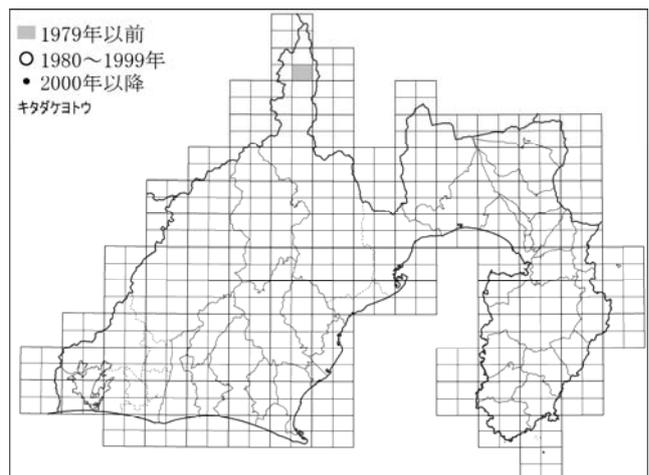
9. 標本

静岡市産: 農研機構 農業環境変動研究センター所蔵

(枝恵太郎)



©2019 T.Miyashita
静岡市産♂表面 1968年7月30日 宮下哲夫採集



オオクサキリ *Ruspolia interrupta* (Walker, 1869)

キリギリス科 Tettigoniidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-Ⅲ 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長オス 38~50 mm、メス 47~53 mm。体は淡緑色で、前胸背板両側部に黄白色の縦条がある。頭部、胸部は大きく、メス産卵器は長い。夕方から活動が活発になり、ススキの上部に出てきて鳴く。多くは「チャキチャキチャキ……」と鳴くが、「ジャー」という早鳴き型、「ジュワジュワジュワ……」と鳴く遅鳴き型もある。成虫は7月下旬~9月に見られ、8月が最盛期である。

2. 分布

国外では、朝鮮半島、中国、インド、ネパールに、国内では本州（新潟平野、関東平野など）、九州（平尾台、由布岳山麓）に局所的に分布し、県内では伊豆、東部（富士山麓）に分布する。

3. 生息環境

関東地方では海岸河口付近のチガヤやススキなどがまばらに生えた砂地や、広い湿原のヨシ原に生息し、九州では山地の高茎草原に生息する。県内の生息地は広大なススキ草原である。

4. 生息状況

生息地での個体数は多いが、高標高地に行くにしたがい減少する。富士山麓では標高 600 m 以下に多く生息するが、それより上部では局所的となる。

5. 減少の主要因と脅威

管理放棄による植生遷移の進行 (53、54) があると生息環境の消失となる。現状では継続して山焼きが行われていて、今後も生息環境は維持されるものと思われる。面積の狭い生息地では環境の消失 (16) により姿を消してきた可能性はある。

6. 保護対策

ススキ草原維持のための山焼きが行われている。

7. 特記事項

広大なススキ草原の環境変化を把握するための指標種として注目していくことが望まれる。

8. 主な文献

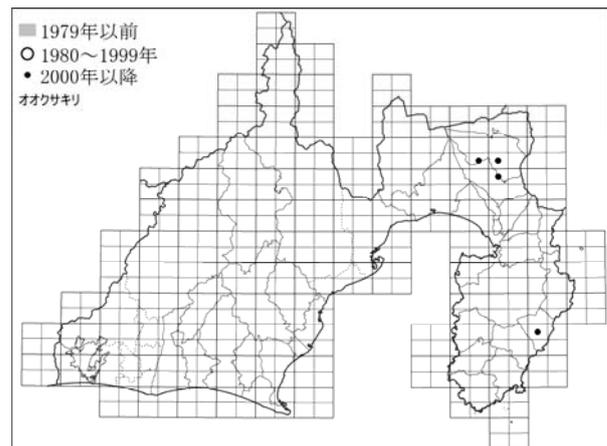
日本直翅類学会 編 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス, 東京, 384 pp.

9. 標本

裾野市産、東伊豆町産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



裾野市大野原 2016年8月8日 石川 均



(石川 均)

スルガセモンササキリモドキ *Nipponomeconema surugaense* Yamasaki, 1983

ササキリモドリ科 Meconematidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長オス 14.5 mm、メス 16.5~18.0 mm。体は淡い黄緑色で、前胸背板のチョコレート色の紋がオスでは特に美しい、小型のササキリモドキ科昆虫である。前翅、後翅とも完全で、飛翔する。他に日本から近似の種が3種記載されているが、識別は難しい。成虫は8~10月に見られる。

2. 分布

日本固有種で、静岡県、愛知県、長野県などに分布する。県内では大井川上流の畑薙ダム周辺、藤枝市高根山及び浜松市(旧水窪町)兵越峠で確認されている。静岡市赤石温泉が基準産地である。

3. 生息環境

ブナ帯のクリ、ミズナラなどの良好に残されている落葉広葉樹林に生息し、スギ、ヒノキなどの人工林地帯では通常見られない。

4. 生息状況

通常の採集方法では確認することが難しいため、詳しいことはわかっていない。夜間調査や灯火採集で確認されるが、県内いずれの生息地においても確認される個体数は非常に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

自然度の高い森林の伐採(11)が本種の生息に脅威となると考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

生息確認地ではこれまでに生息状況に変化はみられていないので、環境変化を把握するための指標種として今後も注目していくことが望まれる。

8. 主な文献

石川 均 (2000) スルガセモンササキリモドキのオス尾端の図. バッタリギス, (123): 78

杉山高史 (2008) 志太地域におけるササキリモドキ類の採集記録. 駿河の昆虫, (222): 6167-6168

Yamasaki, T. (1983) *Nipponomeconema*, a new genus of the Japanese Meconematinae (Orthoptera, Tettigoniidae), with the description of four new species. *Annot. Zool. Jpn.*, 56(1): 59-67

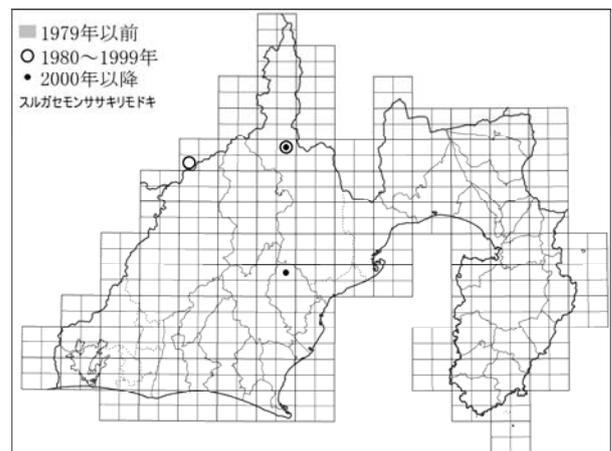
9. 標本

静岡市赤石温泉産: 国立科学博物館所蔵(ホロタイプ、パラタイプ)

(石川 均)



静岡市葵区畑薙 2015年9月24日 石川 均



静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長(翅端まで) オス 31.0~36.0 mm、メス 40.5~44.5 mm。前翅が腹端を大きく越すイナゴであるが、前翅が通常腹端に届かないコバネイナゴ *Oxya yezoensis* Shiraki, 1910 の長翅型と紛らわしい。オスの場合は、正確には交尾器を調べる必要がある。メスでは生殖下板に1対の縦隆起線があることで区別できる。成虫は8月下旬頃出現し、10月まで見られる。

2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジア、インドなどに、国内では本州、四国、九州南西諸島に分布する。本県における正確な記録はほとんどなく、過去の分布状況は不明である。県内では中部からは記録がなく、伊豆南部の下田市・河津町・南伊豆町、伊豆半島西部の松崎町・西伊豆町・伊豆市土肥町・沼津市井田の水田地帯及び東部の富士川河口、西部の遠州浜湿地、中田島砂丘内の湿地、馬込川河口、都田川河口などで確認されている。そのほか、牧ノ原台地にあるゴルフ場内の池にも生息地がある。

3. 生息環境

谷戸の水田地帯では水田内及びその周囲のイネ科草地に生息しているが、広い平野部の水田地帯にはいない。また、河川感潮域のヨシ原は個体数が多く生息適地となっている。

4. 生息状況

伊豆半島南部の生息地においては、10年程前には耕作放棄や開発による生息地の消失のため減少した場所が見られたが、近年河川沿いに分布を上流側に広げている場所がある。また、松崎町石部の棚田は生息密度が非常に高い。県内河川河口部のヨシ原ではおおむね大きな変化はなく維持されているが、富士川河口部では2010年9月の台風9号による洪水後姿が見られなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

耕作放棄(53)による植生遷移(54)、宅地開発などによる生息環境の消失(23)が挙げられるが、分布を拡大している地域も見られ減少の程度は不明である。河川河口部の河床掘削、河川改修(13)は脅威となる。洪水による生息地への影響も生じている(55)。

6. 保護対策

松崎町石部の棚田では無農薬の稲作が行われていることから良好な生息環境が維持されている。

7. 特記事項

コバネイナゴは乾燥したイネ科草地にも生息するが、ハネナガイナゴは県内では湿性草地に限られる。

8. 主な文献

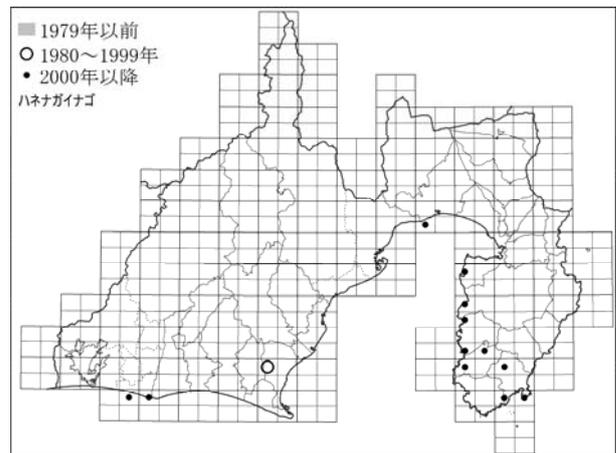
石川 均(1988) ハネナガイナゴは回復しつつあるのか. バッターギス, (78) : 2785-2786

9. 標本

富士市五貫島産ほか : 個人所蔵 (公的機関の保管不明)



下田市吉佐美 2008年9月27日 石川 均



(石川 均)

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長(翅端まで)オス 30.0 mm、メス 37.5~41.3 mm。前胸背板が濃褐色を呈することが和名の由来となっている。生時は複眼に縦の縞模様が目立つ。後脚腿節内側と基部をのぞく後脚脛節は赤い。成虫は7月下旬から10月頃にかけて見られる。人の気配ですぐに飛び立つが遠くに飛翔することはなく、丈の高い植物群落に潜り込むため確認が難しい。

2. 分布

国外では朝鮮半島、沿海州南部、中国、インドなどに、国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。県内では天竜川以西の浜松市(旧浜北市・引佐町・三ヶ日町)の数ヶ所及び大井川、安倍川、富士川の下流域河川敷に分布するほか、東伊豆町、伊東市、裾野市、御殿場市のススキ草原に分布する。

3. 生息環境

西部の生息地は、湿地付近にある、よく茂っているがあまり背丈の高くないススキやヨシなどのイネ科草本を主とした草地である。中部河川敷の生息地はチガヤ、カワラケツメイ、カワラヨモギなどの生育する背丈の低い乾燥気味の草地である。ただし、いずれの生息地も背丈の低い草地に隣接して背丈の高く密なススキなどの草がセットで立地している。東部、伊豆では広大なススキ草原に生息する。

4. 生息状況

ふつう生息密度は低い、大河川の河川敷やススキの草原では生息密度の高い場所が多くある。

5. 減少の主要因と脅威

環境が維持されれば問題ないが、河川敷の公園化(13)は生息環境消失につながる。また、移動能力が小さくないため生息環境の分断(23、24)が脅威となる。

6. 保護対策

裾野市と御殿場市の生息地は自衛隊演習場内にあり、生息環境は維持されている。東伊豆町と伊東市の生息地も毎年山焼きが行われて生息環境が維持されている。

7. 特記事項

生息には低茎草地と高茎草地のセットが必要で、ある程度の面積も必要と考えられる。

8. 主な文献

内田正吉(2013) 消えゆく河原の生きものたち。エッチエスケー、東京、146 pp.

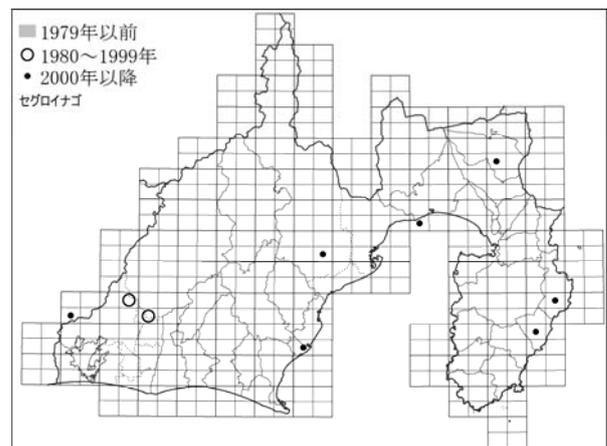
渡辺一雄(1983) 遠州地方産昆虫分布資料(2)。遠州の自然、(6): 10-12

9. 標本

浜松市北区三ヶ日町産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



富士市五貫島 2011年11月5日 石川 均



(石川 均)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-III 部会注目種) 変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長オス 16.0~20.7 mm、メス 18.3~23.5 mm。体全体黄色みが強い点で、近縁の他のヒナバッタ類から区別される。通常は前翅に斑紋を欠く点も特徴となっている。6月頃成虫が出現し、10月までは見ることができる。

2. 分布

国外ではロシア、中国、モンゴルに、国内では北海道、本州に分布する。北海道の記録は誤同定の可能性がある。静岡県からは正式に記録されたものはないが、東部と中部に分布する。富士山中腹と南アルプス南部の標高 1,300~1,500 m 付近で採集されている。静岡県が分布の南限となる。

3. 生息環境

ブナ帯の林道沿いにあるイネ科の草地や牧場、スキー場周囲の草地などで、日当たりは良く草丈は高くない場所である。

4. 生息状況

ある程度面積的にまとまった草地では生息数は多い場合があるが、県内ではふつう生息密度は低く、生息環境は連続していないため局所的な分布をしている。遷移の進行によって姿を消した場所もある。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行 (54)、草地開発 (16) などによる生息環境の悪化により生息地が消失した場所がある。道路沿いの小規模な草地は知らない間に消失するが多い。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

野澤 (1950) によりヒジグロヒナバッタ *Ch. fumatus* (Shiraki, 1910) の名で南アルプスに産するとされているのは本種である。

8. 主な文献

石川 均 (1999) タカネヒナバッタは大陸からやってきた. バッタリギス, (120): 48

石川 均 (2008) 日本産ヒナバッタ類とその見分け方. 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター 編, 大阪市立自然史博物館叢書-④鳴く虫セレクション, pp. 61-69. 東海大学出版会, 秦野.

野澤 登 (1950) バッタの解説(1). 新昆虫, 3(3): 25-27

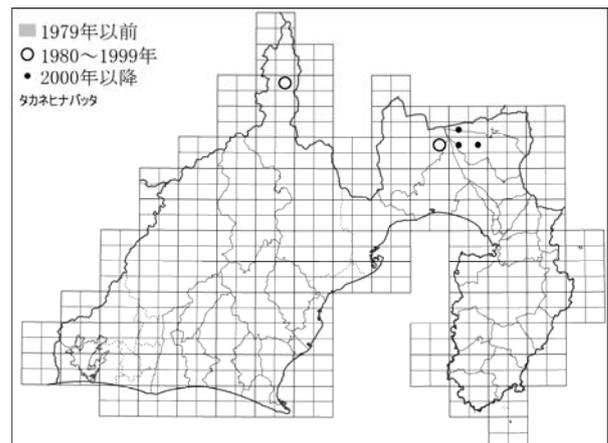
9. 標本

静岡市葵区田代産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(石川 均)



御殿場市太郎坊 2008年8月14日 石川 均



静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長オス 11~14 mm、メス 14~16 mm。高山性の小型のヒナバッタで、オスの前翅はやや短く、後翅は極端に縮小し飛ぶことはできない。メスの前翅は紡錘形で小さい。褐色型と緑色型がある。八ヶ岳の亜種 ヤツコバネヒナバッタ *Ch. f. yatsuanus* Yamasaki, 1968 によく似るが、オスはさらに小型である。成虫は 8 月に出現し、10 月末の積雪時までは見られる。

2. 分布

南アルプス高山帯に分布する南アルプス固有亜種である。県内では、農鳥岳、塩見岳から茶臼岳付近まで生息する。基準亜種はロシア、中国、モンゴルに分布する。国内には他に、亜種エゾコバネヒナバッタ *Ch. f. strelkovi* Bey-Bienko, 1949 が北海道東部、東北地方北部に分布し、亜種ヤマトコバネヒナバッタ *Ch. f. yamato* Yamasaki, 1968 が関東山地の浅間山、本白根山周辺、亜種ヤツコバネヒナバッタが八ヶ岳に分布し、他に未記載の亜種フジコバネヒナバッタ *Ch. f. ssp.* が富士山、キソコマコバネヒナバッタ *Ch. f. ssp.* が中央アルプスに分布している。

3. 生息環境

標高 2,300 m 付近の亜高山帯上部から、聖岳、塩見岳、農鳥岳など標高 3,000 m を超す山頂まで、ヒメノガリヤスなどのイネ科草本の生育するところに生息する。

4. 生息状況

通常個体数は多くないが、聖平付近のようにイネ科草が広く見られる場所では個体数は非常に多い。生息地は連続しているわけではなく、ハイマツ群落などにより分断されている。

5. 減少の主要因と脅威

特に減少が著しいという事実はない。しかしながら、稜線付近によく見られるため、登山者による植物の踏みつけによる生息環境悪化及び登山者による直接的な踏みつぶしが心配される (51)。

6. 保護対策

生息地のほとんどは南アルプス国立公園の特別保護地区や第一種特別地域であるため、採集圧や開発行為のおそれはほとんどない。

7. 特記事項

開発による影響はないが、近年の急激な温暖化による環境の変化が生息地縮小をもたらすことが考えられる。なお、キツネやサルなど野生動物の餌として重要な位置を占めている可能性がある。

8. 主な文献

Ishikawa, H. (2003) A new subspecies of *Chorthippus fallax* (Zubovskiy, 1899) from the Akaishi mountains, central Honshu, Japan (Orthoptera: Acrididae). *Jpn. J. syst. Ent.*, 9(1): 121-125

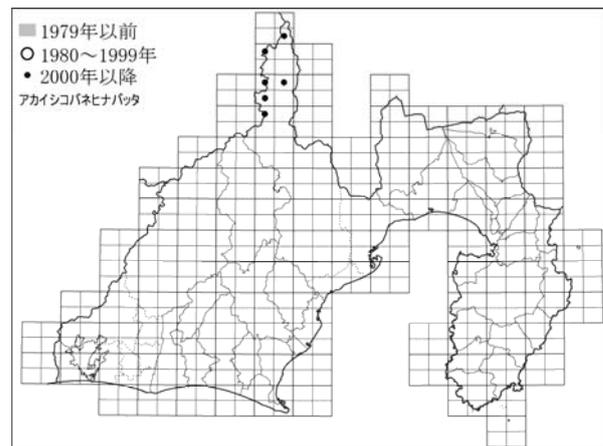
9. 標本

静岡市葵区田代産：大阪市立自然史博物館所蔵（ホロタイプ、パラタイプ）、愛媛大学ミュージアム所蔵（パラタイプ）

(石川 均)



©2019 H. Ishikawa
静岡市葵区田代 2010年9月19日 石川 均



1. 種の解説

体長オス 14.0~16.9 mm、メス 20.0~25.3 mm。高山性の小型のヒナバッタで、オスの前翅はやや短く、後翅は極端に縮小し飛ぶことはできない。褐色型だけが確認されている。メスの前翅は紡錘形で小さい。南アルプスの亜種アカイシコバネヒナバッタ *Ch. f. akaishicus* Ishikawa, 2010 によく似るが、触角が短い点で区別できる。成虫は8~9月に出現する。

2. 分布

富士山固有亜種(未記載)で、山梨県と静岡県に分布する。高山性のバッタで県内の主要生息地は宝永火口付近にある。国内には他に、亜種エゾコバネヒナバッタ *Ch. f. strelkovi* Bey-Bienko, 1949 が北海道、東北地方北部に分布し、亜種ヤマトコバネヒナバッタ *Ch. f. yamato* Yamasaki, 1968 が関東山地の浅間山、本白根山周辺、亜種ヤツコバネヒナバッタ *Ch. f. yatsuanus* Yamasaki, 1968 が八ヶ岳に分布し、亜種アカイシコバネヒナバッタが南アルプス、他に未記載の亜種キノコバネヒナバッタ *Ch. f. ssp.* が中央アルプスに分布している。

3. 生息環境

宝永火口のような草本がまばらな荒原に生息する。標高 2,300 m 程度の亜高山帯上部でも、雪崩跡に成立したまばらなイネ科草本の生育するところには生息するが、そのような場所は一時的と考えられ遷移の進行とともに姿を消す。

4. 生息状況

宝永火口付近では個体数は多いが、そのほかでは多くない。生息範囲は標高 2,400 m 付近から 2,800 m 付近までと狭い。

5. 減少の主要因と脅威

特に減少が著しいという事実はない。しかしながら、登山道付近によく見られるため、登山者による直接的な踏みつぶし(51)が心配される。

6. 保護対策

生息地のほとんどは富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区であるため、採集圧や開発行為のおそれはほとんどない。

7. 特記事項

開発による影響はないが、近年の急激な温暖化による環境の変化が生息地縮小をもたらすことが考えられる。アカイシコバネヒナバッタ同様に氷期の遺存種である。温暖化の影響に対する環境指標性が高いと考えられる。今後の分類学的整理が望まれる。

8. 主な文献

石川 均 (2010) フジコバネヒナバッタ. NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク 編, しずおか自然史, pp. 170-171. 静岡新聞社, 静岡.

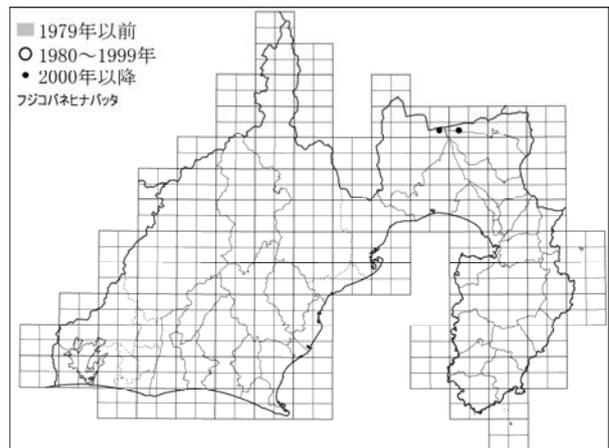
9. 標本

御殿場市宝永火口産ほか：個人所蔵(公的機関の保管不明)

(石川 均)



©2019 H. Ishikawa
御殿場市富士山宝永火口 2008年9月5日 石川 均



静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 7.0~11.0 mm。黒色で半翅鞘は茶褐色、銀白色微毛を装い、体側では密生して銀白色の縦条を形成する。肢は黄褐色。体は細長く、両側はおおむね平行、日本産の他のアメンボに比較して、一見して華奢な印象がある。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では沼津市大平、静岡市野丈浅畑川、磐田市桶ヶ谷沼・鶴ヶ池、浜松市南区松島町、浜松市西区大平台佐鳴湖で記録があり、伊豆の国市葦山多田大沢池、富士宮市沼久保、静岡市葵区足久保口組諸川池・芝原麻機遊水池、静岡市駿河区下川原安倍川河川敷、菊川市東横地丑池、浜松市南区白羽町、浜松市西区篠原町などで採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

ヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼に生息する。抽水植物間の閉鎖水面で生活し、開放水面に出ることはほとんどない。

4. 生息状況

県内では各地で生息が確認され、個体数の多い生息地も複数見られた。公園などとして保全されている場所もあることから、全生息地において直ちに絶滅が危惧される状況にはないが、今後の動向に注目していく必要がある。

5. 減少の主要因と脅威

開発(23)などによる生息環境の消失、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化(54)、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊(54)などが脅威となる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

成虫はほぼ一年中見られる。

8. 主な文献

- 井上智雄(1988)エサキアメンボとババアメンボが棲む桶ヶ谷沼. 昆虫と自然, 23(13): 21
 加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘(2008)第5章1項6 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県戦略課題研究「快適空間『佐鳴湖』の創造」研究報告書, pp. 470-523. 静岡県産業部振興局研究調整室, 静岡.
 北野 忠(2000)静岡県および静岡県近海で確認された水生半翅目. 遠州の自然, (23): 1-8
 杉山恵一 編(1990)桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. 財団法人日本野生物研究センター, 東京, 334 pp.
 矢崎充彦(2001)エサキアメンボ愛知県に産す-東海地方におけるアメンボ科分布資料-. 佳香蝶, 53(207): 39-41

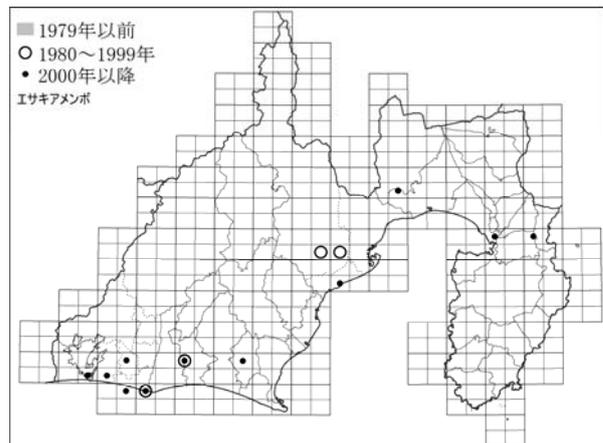
9. 標本

浜松市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa
 浜松市産 2014年10月1日 石川 均採集



静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更なし

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

1. 種の解説

体長 17~20 mm。黄褐~暗褐色。体はおおむね卵形で、背面はほぼ平坦、前肢は腿節が肥大し、脛節は少し湾曲、跗節は1節で末端の爪とともに鉤状を呈し、全体として捕獲脚をなす。中・後肢は通常の遊泳脚で、中肢はやや短い。

成虫・幼虫とも水中で他の小昆虫や淡水産貝類などの水生生物を捕えて体液を吸汁する。メスはオスの背面に卵を産み付け、オスは卵が孵化するまで保護することで有名。

2. 分布

国外では極東ロシア、朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆半島、静岡市葵区足久保口組諸川池、掛川市大坂、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市南区松島町、浜松市浜北区平口・都田町、浜松市北区引佐町東久留女木・霧山・伊平、細江町中川、浜松市西区雄踏町宇布見、湖西市新所・白須賀で記録があり、下田市箕作、沼津市西浦足保、菊川市潮海寺、浜松市南区白羽町、浜松市西区篠原町・坪井町・馬郡町、浜松市北区引佐町別所・三ヶ日町福長、湖西市古見などで採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

池沼や湿地、水田脇の水溜まりなどに生息するが、近年水環境の喪失・悪化などにより全国的に減少している。

4. 生息状況

県内では東部をのぞく各地から記録があり、特に西部で採集例が多い。個体数の多い場所も少なくなく、現在のところ、県内において減少傾向は認められないようであるが、全国的には生息地が減少していることから、今後その動向について注目する必要がある。

5. 減少の主要因と脅威

開発(23)や圃場整備(15-2)などによる生息環境の消失、農薬・肥料などによる水質汚染(32)などが脅威となる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

記録はないが、東部にも生息している。

8. 主な文献

北野 忠(2000) 静岡県および静岡県近海で確認された水生半翅目. 遠州の自然, (23): 1-8

佐藤卓也(1993) 静岡県中部・西部におけるタイコウチ科, コオイムシ科について. 駿河の昆虫, (164): 4655-4656

油井雅樹(1997) 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023

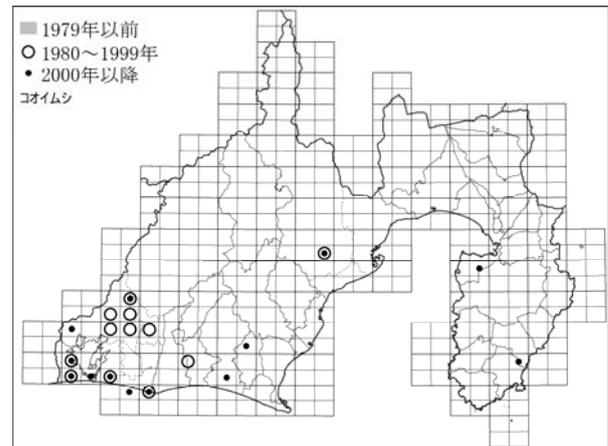
9. 標本

下田市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

下田市箕作産 2003年9月7日 石川 均採集



(多比良嘉晃)

タガメ *Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy, 1864)

コオイムシ科 Belostomatidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード 11

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

体長 48~65 mm。灰褐~褐色で背面は半翅鞘の膜質部をのぞき、金褐色短鱗毛を多少とも密生し光沢が鈍い。体はおおむね長円形で、後部は少し細まる。前肢は腿節が強く肥大し、脛節は少し湾曲、跗節は3節ではなはだ短小、末端に1本の鉤状の爪を具え、全体として強大な捕獲脚を成す。中・後肢は通常の遊泳脚で、腿・脛・跗節の内縁あるいは外縁に長毛を生じ、末端の爪は2本。尾端の呼吸管は短小。

成虫・幼虫ともに水中のカエルやオタマジャクシ、小魚などを捕えて体液を吸汁する。メスは6~7月頃、イネ科植物や木の杭などの水面より上の部分に卵塊として産下し、オスは卵が孵化するまで世話をする。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、極東ロシア、アッサムなどに、国内では本州、四国、九州、対馬、琉球に分布する。県内では伊豆半島、浜松市中区高町、浜松市浜北区宮口、浜松市天竜区、浜松市北区引佐町四方浄・伊平、浜松市北区三ヶ日町の記録があり、他に浜松市北区引佐町東久留女木・別所での採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

丘陵地から山地の水生植物の多い池沼や水田、水田脇の水路などに生息する。

4. 生息状況

かつては各地の平地から丘陵地の水田や池沼にふつうに見られたらしいが、近年では西部各地の記録しかないようである。西部では、1990年代前半から散発的に記録されるようになり、場所によっては最近も安定的に生息しており、個体数は少なくないところがある。今後の生息状況の動向について注目する必要がある。

5. 減少の主要因と脅威

開発(23)や圃場整備(15-2)などによる生息環境の消失、農薬・肥料などの流入による水質汚染(32)、植生遷移の進行(54)に伴う生息環境の変化などが本種と本種の餌になる小動物・昆虫類他の生存を脅かすと考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

水田を繁殖地として利用する場合、水田に水が入る5~8月のみに現れて繁殖し、その生活史は稲作の農事暦と同調的であるという。

8. 主な文献

石川 均・朝倉俊治(1992) タガメ、静岡県に健在。駿河の昆虫, (157): 4488

北野 忠(2000) 静岡県および静岡県近海で確認された水生半翅目。遠州の自然, (23): 1-8

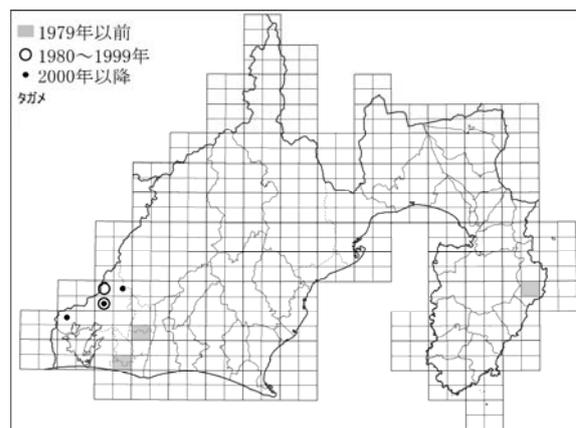
9. 標本

伊東市産: 平塚市博物館所蔵



©2019 T.Asakura

浜松市産 1991年8月20日 朝倉俊治採集



(多比良嘉晃)

ミゾナシミズムシ *Cymatia apparens* (Distant, 1910)

ミズムシ科 Corixidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 5.0~5.9 mm。小型のミズムシで、コミズムシ類 (*Sigara* 属) に似ているがやや細型。顔(頭部腹面)は非常に短く三角形で、口(下唇)の横溝を欠く。前脚の附節は細長く、太い剛毛が列生する。前胸背板には黒色の横帯があり、その斑紋パターンはコミズムシ類と基本的に同じである。

成虫は一年中見られる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インドに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では磐田市桶ヶ谷沼の記録しかないが、静岡市葵区麻機遊水地、榛原郡吉田町、菊川市東横地、磐田市鶴ヶ池、浜松市南区松島町、浜松市西区大平台・篠原町・坪井町・馬郡町・舞阪町などで採集されている(未発表)。

3. 生息環境

ヨシやガマなどの抽水植物が繁茂するやや深い池沼など、安定した止水域に生息する。

4. 生息状況

全国的には分布が限られているが、県内では中部から西部にかけて点々と生息地が確認されている。生息地によっては生息密度の高い場所もある。新たに出現した池などで大発生することがあるという。

5. 減少の主要因と脅威

良好な池沼の減少(12)、水質悪化(31)、捕食性外来魚の侵入(52-3)が脅威となる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

コミズムシ類(植物性プランクトンや藻類食)と異なり肉食性が強いようで、長剛毛が列生した前肢附節で他の水生昆虫やミジンコ類を捕食するという。

8. 主な文献

林 正美・宮本正一(2005) 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三 編, 日本産水生昆虫-科・属・種の検索-, pp. 291-378. 東海大学出版会, 秦野.

杉山恵一 編(1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査および立地条件調査-. (財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

矢崎充彦・石田和男(2008) 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60(234): 165-200

9. 標本

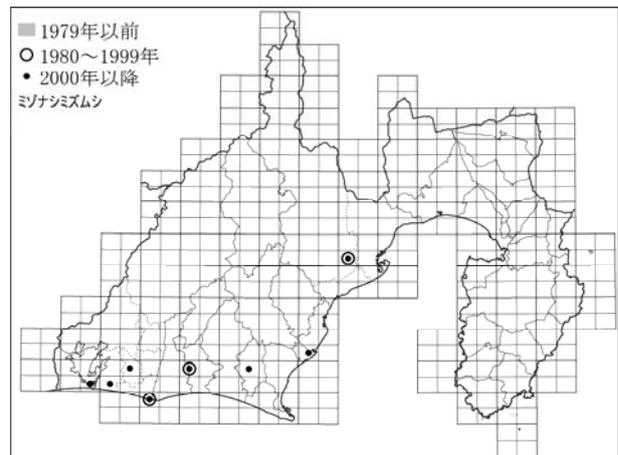
浜松市産ほか: 個人所蔵(公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃・石川 均)



©2019 H.Ishikawa

浜松市南区産 2015年2月18日 石川 均採集



アイヌハンミョウ *Cicindela (Cicindela) gemmata aino* Lewis, 1891

ハンミョウ科 Cicindelidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 16～19 mm。背面は暗赤銅～暗緑銅色、体下面は緑～青紫色に、胸側は赤紫色に光る。上唇は黄白色、横長で前縁はほぼ直線状。頭は毛を散生し、上翅の点刻は濃青色、凹点は緑色に光る。翅端紋は弦部を有する。成虫はおもに3～6月に活動し、小昆虫などを捕食する。幼虫は生息場所の砂地に穴を掘って潜み、穴の入り口付近を通りかかった小昆虫などを捕食する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリア南東部に、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では狩野川水系猫越川・黄瀬川、大井川水系大井川・長尾川、天竜川水系天竜川・気田川・石切川・杉川・大千瀬川など、河川の上・中流部で記録がある。大井川本流では樫島(標高約1,120 m)での採集例がある(未発表)。

3. 生息環境

比較的大きな河川の中流域から上流域にあたる日当たりのよい、礫が散在する砂地河原に生息する。

4. 生息状況

県内における詳細な生息状況の報告はないが、狩野川水系では生息密度の高い生息地が多く存在していることが確認されている(未発表)。大小の礫が散在する砂地河原で生息密度が高く、礫の少ない砂地河原では生息密度が低い。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修(13)の影響で生息環境が減少している。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

愛知県では、夜間や雨天時は石下を休息場所としているということが観察されている(蟹江・長谷川, 1994)。

8. 主な文献

浅野 隆 (2011) 浜松市気田川水系のアイヌハンミョウの記録. 駿河の昆虫, (233): 6445

浅野 隆 (2011) 天竜川水系のアイヌハンミョウの記録. 駿河の昆虫, (236): 6520

浅野 隆 (2013) 大井川水系のアイヌハンミョウの記録. 駿河の昆虫, (244): 6725

榎戸良裕 (1989) 伊豆半島でアイヌハンミョウを採集. 月刊むし, (226): 8

榎戸良裕・鈴木 裕 (2013) 静岡県御殿場市からアイヌハンミョウを記録. 月刊むし, (512): 47-48

石川 均 (1997) 接岨峡で採集したハンミョウの記録. 駿河の昆虫, (179): 5036

蟹江 昇・長谷川道明 (1994) 愛知県におけるアイヌハンミョウの分布. 豊橋市自然史博物館研究報告, (4): 47-48

森本 桂 監修 (2007) 新訂原色昆虫大図鑑 第□巻(甲虫篇). 北隆館, 東京, 526 pp.

乙部 宏・城殿 浩 (2000) 静岡県西部の甲虫類の記録若干. 駿河の昆虫, (189): 5310

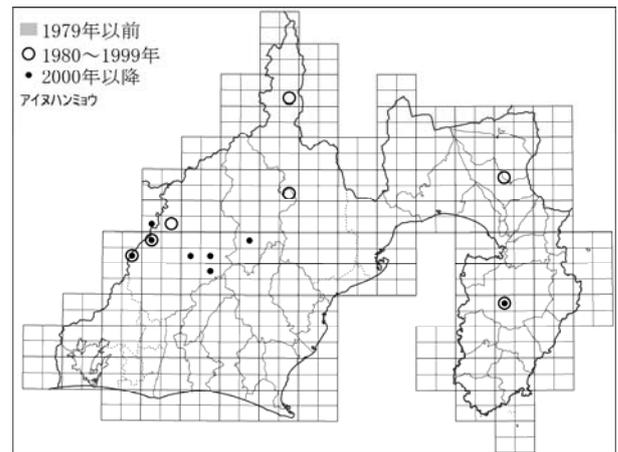
9. 標本

伊豆市産ほか：個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

伊豆市田沢産 2014年5月23日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)

1. 種の解説

体長 15～20 mm。黒色で光沢を有する。体はおおむねヒョウタン形、口器の大顎はよく発達して前方に突出し、前胸背板は幅広く前角は前方に三角形に突出、前肢脛節は掌状に変形して掘削脚となる。

成虫は夏季に出現し、昼間は砂中深く、あるいは海岸に打ち上げられた海藻類や流木などの下に潜み、夜間に砂上を徘徊して他の小昆虫や小節足動物などを捕食する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆半島、沼津市桃里千本浜海岸、静岡市清水区三保半島で記録がある。

3. 生息環境

海岸の砂浜に生息する。オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* Olivier, 1795 のように河川の砂地に生息することはないようである。

4. 生息状況

かつて記録のあった静岡市清水区駒越南～折戸の海岸は養浜のための土砂搬入により絶滅した可能性が高いが、その北東の三保海岸では最近健全に生息していることが確認された。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の保全工事 (14) や車両の乗り入れ (71) などにより、一部地域の生息環境の破壊が著しい。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

未確認であるが、下田市須崎の海岸でも多数生息しているという。

8. 主な文献

安立綱光 (1951) 伊豆半島の動物 其の二 無脊椎動物. 吉田竜男 編, 伊豆半島 (伊豆国立公園候補地学術報告), pp. 137-156. 静岡県・静岡県観光協会, 静岡.

坂倉理一郎・横山謙二 (2016) 静岡市三保半島海浜の昆虫相調査-海浜性甲虫を中心に-. 東海自然誌, (9): 1-24

杉山高史 (2004) 千本浜海岸におけるヒョウタンゴミムシの採集記録. 駿河の昆虫, (208): 5801

多比良嘉晃 (1984) ヒョウタンゴミムシの採集例. 静岡の甲虫, 2(2): 61

多比良嘉晃 (1999) 絶滅か? 三保のカワラハンミョウ. 静岡の甲虫, 11(1/2): 62-63

9. 標本

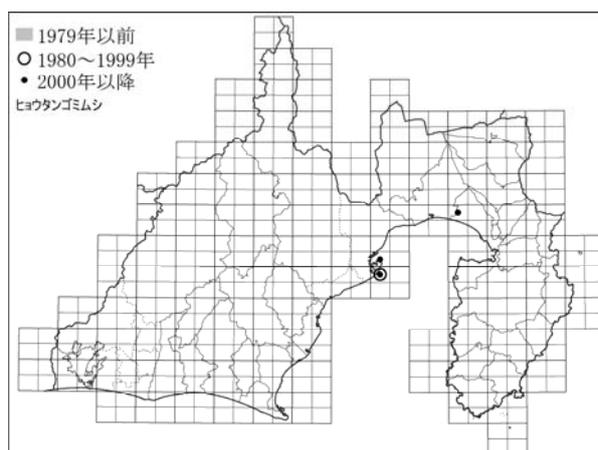
静岡市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa

静岡市産 2018年7月20日 石川 均採集



スナハラゴミムシ *Diplocheila elongata* (Bates, 1873)

オサムシ科 Carabidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-Ⅲ 部会注目種)変更コード4

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

体長 23~24 mm。黒色で光沢をもつ。上翅は長く、前胸の約3倍の長さで両側はほぼ並行。大顎の上面にはしわがあり、上唇は浅く湾入する。頭楯の前縁は平ら。複眼内側の剛毛は1本。前胸は前方に強く狭まり、基方は後角の前で弱く波曲する。後角は鈍くまるい。基部凹陷は深く線状。第5跗節下面に剛毛はない。

夏季に灯火に飛来することがあるが、詳細な生活史は不明。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では静岡市葵区麻機 (Asabata, near Shiduoka (sic)) における1940年採集の記録があるだけであったが、近年県内で再発見された(未発表)。

3. 生息環境

やや湿性の環境を好み、主に池沼周辺や河川敷などの草地に生息していると考えられる。

4. 生息状況

県内の確認例がほとんどなく生息状況は不明であるが、個体数は非常に少ないものと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

護岸工事を伴う池沼や河川の開発(12、13)、湿地開発(15-1)または草地の開発(16)による生息地の消失と減少。湿地の植生遷移(53、54)の進行に伴う乾燥化も生息状況を圧迫している可能性がある。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

静岡市葵区麻機は遊水池や江戸時代から作られていた蓮根のハス田があるので、現在も生息している可能性があるが、未調査である。

8. 主な文献

中根猛彦(1985)日本の甲虫(69). 昆虫と自然, 20(9): 18-22

上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 編(1985)原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 514 pp.

高橋 徹(2012)ゴミムシ類-Part C-. 初宿成彦 編, 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(2). 大阪自然史博物館収蔵資料目録 第44集, pp. 57-170. 大阪市立自然史博物館, 大阪.

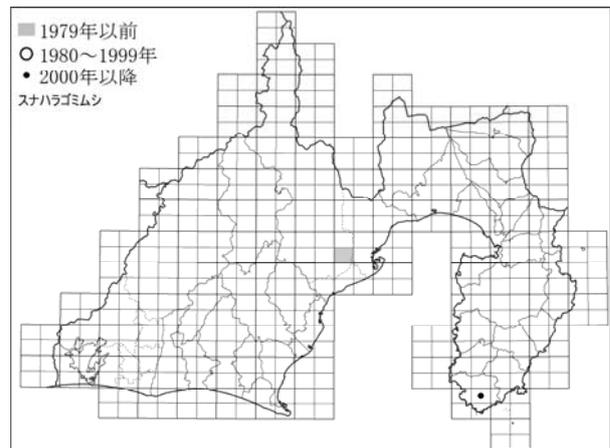
9. 標本

静岡市産: 大阪市立自然史博物館所蔵



©2019 T.Sakai

南伊豆町産 2008年8月3日 酒井孝明採集



(多比良嘉晃・石川 均)

タナカツヤハネゴミムシ *Harpalomimetes orbicollis* N. Ito, 1995

オサムシ科 Carabidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-Ⅲ 部会注目種)変更コード1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

体長 10～11.8 mm。体は黒色、触角と脚が黄褐色で、上翅は虹状光沢を帯びる。前胸背の後角は円く、基部凹陷はきわめて浅く不明瞭。

地表徘徊性で、石や落ち葉の下、草の根際などに潜んでいる。浅い湿地で水生昆虫を採集しているとえられることが多い。灯火にも飛来する。

2. 分布

日本固有種と考えられ、本州、四国、九州に分布する。県内では磐田市鶴ヶ池、磐田市鮫島、浜松市佐鳴湖周辺（中区富塚町新川）の記録があり、沼津市西浦足保と浜松市南区松島町で採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

平野部の湿地や河川敷に生息する。

4. 生息状況

県内の確認例が少なく、生息状況は不明であるが、個体数は少ないものと考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

湖沼開発（12）、河川開発（13）、湿地開発（15-1）などによる生息環境の消滅のほか、植生遷移の進行（54）による湿地の乾燥化も大きな要因と考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

以前は、東南アジアに分布する *Anisodactylus andrewesi* (Schaubergger, 1933) と同種して扱われていたが、日本産は別種であることが判明し、新名が与えられた。

8. 主な文献

Ito, N. (1995) Species of the genus *Harpalomimetes* (Coleoptera, Carabidae, Harpalini). *Elytra*, Tokyo, 23: 267-282

笠原須磨生 (1980) タナカツヤハネゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (52): 6

加藤 徹・多比良嘉晃・塩澤靖弘 (2008) 第5章 1項 6 佐鳴湖周辺の昆虫相. 静岡県戦略課題研究 「快適空間『佐鳴湖』の創造」 研究報告書, pp. 470-523. 静岡県産業部振興局研究調整室, 静岡.

上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝 編 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ). 保育社, 大阪, 514 pp.

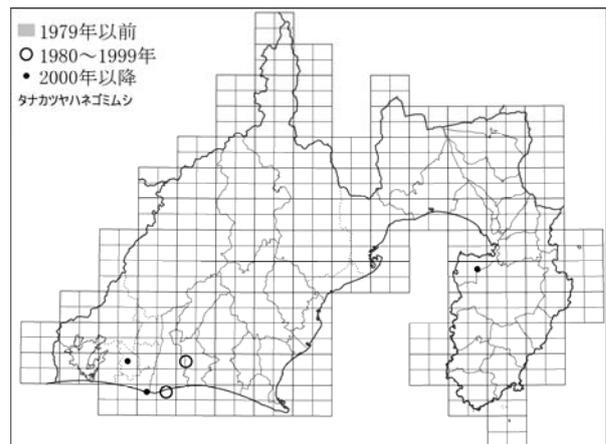
9. 標本

浜松市産、沼津市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 Y.Tahira

沼津市産 2004年8月17日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃・石川 均)

オオサカアオゴミムシ *Chlaenius (Callistoides) pericallus* Redtenbacher, 1867

オサムシ科 Carabidae

静岡県カテゴリー 要注目種(N-III 部会注目種)変更コード6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

体長 11~12 mm。頭部は黒色で緑色の金属光沢があり、前胸は朱色、上翅とともに光沢がない。上翅の条溝は細くて小点刻を密に具え、間室は平たくて緑色を帯び、横皺状に細点刻を装う。背面の毛は黄色であるがあまり目立たない。

夜間に湿地の地表を徘徊し、小昆虫やミミズなどを捕食する。新成虫は秋に出現し、水辺周辺の土中や朽ち木の樹皮下で成虫越冬する。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では芝川町(現富士宮市)羽鮒の記録が1例あるだけである。

3. 生息環境

平野部や丘陵地の湿地や河川敷、休耕田、水田周辺など湿性環境に生息する。芝川町では水田の畦道に置かれた板の下から採集された。

4. 生息状況

県内の確認例がほとんどなく生息状況は不明であるが、個体数は非常に少ないものと考えられる。県内の記録地は、現在は住宅地と化し生息環境は消失した。

5. 減少の主要因と脅威

分布が局所的であることに加え、湖沼開発(12)、河川開発(13)、湿地開発(15-1)、圃場整備(15-2)などによる生息環境の消滅のほか、湿地の遷移進行(54)による乾燥化も大きな影響と考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

関東地方を除けば生息確認は単発的。

8. 主な文献

石川 均(2000) 静岡県におけるオオサカアオゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (131): 15

中根猛彦(1986) 日本の甲虫(72). 昆虫と自然, 21(2): 19-24

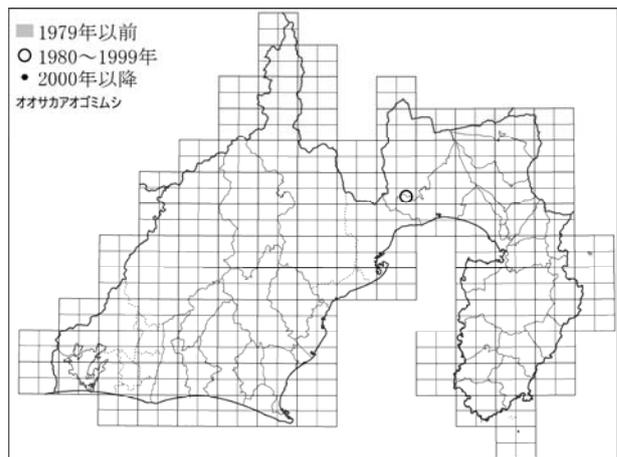
9. 標本

富士宮市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 H.Ishikawa

富士宮市芝川町産 1990年7月6日 石川 均採集



(多比良嘉晃・石川 均)